

みちのクリニックにおける発熱外来の取り組み

文・道野博史（みちのクリニック）

香芝市下田地区でクリニックを開設している道野です。

当院は町のかかりつけ医として整形外科を中心に、総合診療的な診療を目指したいとのコンセプトで平成15年より開院しました。以後、日々の日常診療にまい進しておりましたが、2019年中国武漢でのCOVID-19の発生、2020年ダイヤモンド・プリンセス号の集団感染事例を皮切りに、COVID-19の日本上陸があり、いわゆるコロナ禍が全国に蔓延しました。

いくべきか悩みました。

COVID-19の発生により、いままでの発熱患者と一般診療患者が混在する診療のあり方は崩壊しました。COVID-19の可能性がある発熱患者を受け入れる診察をするのか、あるいは既存の患者を守るために発熱患者を完全にシャットアウトして、発熱患者を診療しないのかの選択に迫られました。当院は町のかかりつけ医として内科、小児科患者を診療する以上、発熱患者の診察は避けて通れません。このため発熱の患者を一般患者と区分して診察する発熱外来の体制を、早急に開設する決定をしました。そのため、屋外テント設営やドライブスルー形式の発熱外来開設は香芝市内ではかなり早かったと思います。

当院発熱外来発足時の周囲や患者の反応について

COVID-19はまだ未知の感染症で、得体のしれない感染症に対する恐怖を皆が持っていた時期でした。そのために発熱外来開設の当初は、「みちのクリニックでコロナが発生した」「コロナが発生して閉院した」等、度重なるデマや風評被害に悩まされました。屋外診察の際に防護服を着てテントや車を回って診察するのですが、当院は国道に面しており、クリニック前は車がよく渋滞するため非常に目立っていたようです。物珍しいのか、わざわざ車から降りてきて無断で写真を撮っていたり、動画撮影されたりと見世物状態でした。ちなみにSNSにも出ていたらしく、今では笑い話です

が、発熱外来初日の映像を見た八尾の勤務医の先生から、「みちのクリニックでコロナが出て、保健所のおっさんが消毒していると掲示板に出ているが本当か？」と連絡があります。「違う。それ私や」と返した記憶があります。その後半年ほど経過して、次第に屋外での発熱外来の運営は全国的にも周知されたところから、次第に風評やデマも落ち着いてきました。

当院での発熱外来の構築について

COVID-19はまったく未知の疾患であり感染経路や危険レベルもわかっておらず、どのレベルの感染対策が必要かわかっていませんでした。私自身は感染症治療の経験と

しては、開業前の大阪市平野区での勤務医時代に、結核患者対応や同じコロナ種のSARS患者の診療をN95マスクやガウンテクニックで対策した経験がありました。ただし10年以上も前の話で、どこまで対応できるか未知数でした。そこでスタッフ

と発熱外来診察を行うにあたり、感染のリスクと問題点の洗い出し、そしてその対策を話し合いました。当時はスタッフも未知の感染症であるCOVID-19に対する恐怖が非常に強かったと思います。クリニックで働くことは感染のリスクが非常に高いと思うスタッフもいて、無理に診察を強行するなら、いっそ退職を…と考えるスタッフもいたと思います。それでも発熱外来を患者のために開設したいという私の方針に賛同してくれました。患者、スタッフそして医師を感染から守るために、どのような手順でチームとして動くのかシミュレーションを重ねました。

また最新の感染対策状況を当時、発熱外来の最前線であった西和医療センターで講習を受け、当院の発熱外来運営の参考にさせていただきま

した。その後も副院長先生とお話しさせていただいたり、感染症専門看護師の現場に即した貴重なアドバイスを受けたら、感染対策のアップデートを継続でき、地域連携の有難さを痛感しました。

当院での発熱患者と

一般患者のトリアージについて

当院では発熱患者のトリアージとして、空間的トリアージを選択しました。具体的には車で診察するドライブスルー型診察と、屋外テントを設営し屋外での発熱患者診察を実践しています。診察時間を分ける時間的トリアージも考えましたが、発熱患者をなるべく待たせず診察加療をしたかった事、時間的トリアージを一般診察外に行うことにより、スタッフの残業疲弊問題に対して有効な対策が思いつかなかったためです。また車越しの診察やお金の授受をすることで、窓ガラス越しの診療でウイルス暴露をコントロールしてスタッフを守る事ができると考えました。もちろんクリニックで専用の

駐車場が確保できる贅沢な環境である事が幸いしました。もしビル診等の環境的な制約があれば、時間的トリアージが選択肢となったと思います。テントで診る患者には、屋外に専用ポストを設置してスタッフが直接発熱患者と接触しない工夫を考案しました。

COVID-19からスタッフを

いかに守るかの取り組みについて

① 保護物品の確保

当初スタッフを守るマスク、ガウン、手袋の確保に奔走しました。当初は感染力の程度がわからず、発熱患者を一人診るたびにPPEの交換徹底により院内にウイルスを持ち込まない方法を選択しました。医者とスタッフが一人診るたびにガウンテクニックのN95と全身型のPPE、フェイスシールドをかえて大量に破棄していくために、すぐに保護物品の消費と枯欠が生じました。また感染ごみ発生で出費増大となり、また個人防護の物品も品薄で価格高騰の

ために、発熱外来はむしろ診るだけ赤字でした。マスクなど個人防護用の物品購入については、このような事態を想定できなかったことに加え、国策としてのマスク等物品製造もなく、全国的にマスクや手袋があまりませんでした。しかたなく怪しい業者やサイトから割高で購入せざるをえず、購入しても不良品であったり苦労させられました。家庭用のゴミ袋の加工によるPPE作成がネットに出ていたのを覚えていました。

そのような物品不足の時期に県や付き合いのある卸業者が、発熱外来維持のため物品の確保に奔走してくださり、なんとか発熱外来継続ができました。この場を借りて御礼申し上げます。

② スタッフをコロナ患者に接触させない工夫

今でこそ接触感染のリスクは少ないことが実証されてきましたが、当初は接触感染のリスクがどの程度かわからず、発熱患者からの保険証やお金をもらうことにスタッフは過度

のストレスを感じていました。そこで保険証をジッパー付きポリ袋に入れてもらい、玄関わきに連絡ポストを設置しそこで対面することなく受け渡しし、ジッパー付きポリ袋をアルコール消毒してウイルスを不活化する工夫をしました。また発熱患者から預かったお金をどう対処するか

の問題は、72時間程度でウイルスは不活化するので、ジッパー付きポリ袋で3日間紙幣をアルコール漬けにして釣り下げていました。おかげで最盛期は、受付の裏は大量の干物のようにお金がぶら下がっていました。また発熱外来問診やカルテ作成の過渡期には、発熱患者との接触も避けるためにデジカメやタブレットによる保険証撮影も行いました。

③発熱外来問診のIT化

初診の発熱外来患者を診察する際に直接物品の受け渡しができず、電話での問診や保険証のポストでの間接的な受け取り等、一般の患者に比べ非常に手間と時間がかかっています。また診療時間内に並行して診

察するため、事務業務に多大の負担がかかっていました。いっそLine等の活用で事前に保険証や問診票を送ってもらえれば、お互いにメッセージが多いよねとの発想から当院のIT化が始まりました。

当時コロナ禍に際して妻が全面的にクリニック運営に奔走してくれており、発熱外来流れの整備やホームページ再立ち上げ、Lineを活用した保険証確認や、webによる発熱外来の事前問診、HERSYSとの連動等々多方面にわたる当院のIT構築をしてくれました。まったく専門外の分野に飛び込み、スタッフ一同とすり合わせて手順の構築等、一気にIT化を進めてくれました。その恩恵により、来院前にカルテを事前に作成することができ、スムーズな発熱外来診察を実現できました。

発熱外来の現状と今後

コロナ禍が始まって3年、2類から5類になりました。まだ感染力の強さ、一般診察とどうすみわけする

か問題は山積ですが、一応の節目を迎えました。この3年間、連日発熱外来診療を実践していますが、私自身は無論、院内スタッフからのコロナ感染を出さずにここまでこれました。これは運用と構築をしてきている妻と、日々感染対策を実践してくれている看護師、お金や薬渡しなど対策は取りつつも発熱患者にしっかりと対応できる事務のスタッフ、皆に支えられて実践できている事であり、とても感謝しています。

5類になったからといってCOVID-19がなくなる訳ではありません。この感染症の問題点の一つは季節性インフルエンザ以上の強い感染力にあると考えております。院内の感染対策もコロナ禍以前の状態には戻せませんが、いままで経験してきた感染対策のノウハウを利用して、患者やスタッフに安全なクリニックをこれからもスタッフと一丸になり構築していきます。

香芝市医師会は前医師会長である岡田先生によって幹事会という意思決定の専門集団が構築されました。

幹事会で多岐にわたる専門の先生が討議することでニュートラルかつ迅速な意思決定ができること、行政と事前に継続性をもって十分討議できる機関が機能していることで、国によるコロナ対策の急激な変化にも香芝市行政と医師会は良好なタッグを組んで対応できたと考えております。

この度、私は香芝市の医師会長を拝命いたしました。香芝市は50件超の医療機関の集まる巨大な組織になりました。私は、医師会とは医師の診療する権利を守るギルドと考えております。そして権利を守るための意思決定機関として幹事会があります。

私の第一の使命としては、香芝市の中核である幹事会を円滑に運営し、盛り上げることと考えております。幹事会は常に香芝市医師会員のためにあります。医師会に対する提案やご意見があれば幹事会で議論します。香芝市医師会員の皆様の活発な参加をお願いいたします。